

# いきいき 元気に活動中



NTT労組退職者の会  
滋賀県支部協議会  
事務局長 堀井 雅和

NTT労組退職者の会滋賀県支部協議会は会員数1,400余名、支部協議会役員は会長他四役5名・会計監査2名・地域幹事43名の体制で、県内を大津・彦根・長浜・八日市・近江八幡・水口・草津・今津の8つの地域に分けて活動を進めています。

総会は毎年11月に開催し、総会から次期総会の間には幹事会を年4回開催する他、各地域においては地域集会を年一回開催し会員とのコミュニケーションの充実を図っております。(以下、活動状況)

毎年5月に親睦バス旅行を計画し毎年80名前後の参加者で賑わい、バス二台で盛大に実施しています。

4月と9月にグラウンドゴルフ大会を開催していますが、毎回100名前後の参加者があり、最も人気があるイベントで、成績

上位者を近畿ブロック大会に代表として派遣し、常に優秀な成績を挙げており、高退協のGG大会にも毎年代表を派遣しているところです。健康ウォークラリー・ボウリング・GGなどの健康増進施策を各地域の主体性により年一回実施、支部協からは活動補助を行っています。

ボランティア活動については毎年NTT労組滋賀県グループ連絡協議会と連携して取組み、書き損じハガキ・未使用切手・未使用ハガキ・未使用テレホンカードの拠出を呼び掛け、NPO法人「HFW」へ多くのカンパを届けております。また、グループ連絡協議会の環境統一行動についても毎年参加し、マキノ町海津の桜への施肥活動を中心とする「桜守活動」・琵琶湖地球の森への植樹活動など協力体制をとっております。機関紙は年4回発行・宅配を堅持するとともに、日常のコミュニケーションを充実するため、2006年からインターネット上にブログを開設して積極的に記事投入を行っており、閲覧回数は16,000件を突破しました。

また、新入会員獲得については、旧来の会社説明会便乗方式を脱皮し、昨年からは、グループ連絡協議会独自の説明会としてライフプラン勉強会等を含め一日かけて実施、終了後会食懇談会を実施する等充実を図っており、今年は100%加入を達成することが出来ました。



# りりしっしん 滋賀

第34号 2011.6.15  
発行所:連合滋賀高退協  
発行責任者:吉川 浩次  
編集責任者:山崎 長榮  
大津市松本2丁目10-6  
TEL 077-523-0500  
FAX 077-523-5600

## 連合滋賀高退協 第17回総会開催!

連合滋賀高齢・退職者団体協議会は、第17回総会を2月19日(土)ライズヴィル都賀山において、役員、代議員合わせ73名の参加で開催しました。

総会では、2010年度活動報告、会計・監査報告を承認した後、2011年度の運動方針(案)、予算(案)、についての各議案を全会一致で確認しました。

その後、退任役員功労者表彰として、2004年から連合滋賀高退協幹事として就任頂いておりましたJAM滋賀シニアクラブの大西慶一氏に、その功労を称え感謝の意を表して表彰を行いました。

最後にNTT労組退職者の会滋賀県支部協議会の九里愛子代議員より総会宣言を提案いただき満場の拍手で採択しました。

2011年度の運動方針では、高齢者が安心して暮らせる社会の仕組みや、信頼できる



(総会宣言を提案する九里愛子代議員)

充実した年金・医療制度・社会保障制度・税制改革をめざす取り組みを引き続き行っていくこと、また、会員相互の交流・親睦を深めるため、グラウンドゴルフ大会の開催や近畿ブロック主催の秋のハイキングなどに積極的に参加すること、また、各種の取り組みについて「現・退一致」で相互に支援しあいながら取り組むことなどが確認されました。

### 連合滋賀高退協 第4回グラウンドゴルフ大会 開催日決定!!

日時: 9月2日(金)  
場所: 竜王町総合運動公園  
ドラゴンハット



(退任役員功労者表彰を受ける大西慶一氏)

# 第17回統一地方選挙

## — 連合滋賀推薦候補者 —

### 県議会12名、市議会14名 当選!!

## 連合滋賀 高退協会員及び そのご家族含めて ご尽力に感謝!

### 〈東北地方太平洋沖地震〉連合救援ボランティアに参加!



連合滋賀高退協  
事務局次長  
(連合滋賀  
副事務局長)  
杉田公太郎

〔避難地での炊き出し作業中〕

連合は、3月11日（金）に発生した東日本大震災の被災地に、3月31日からボランティア派遣を行っている。わたしはその第6陣として5月10日～18日の日程で参加してきた。

派遣されたベースキャンプは、福島県会津にあり、活動拠点はそこからバスで約一時間移動した郡山市とその周辺を担当した。活動の内容は、避難所への炊き出し・配膳・仕分けを中心に行うこととなり、当初「がれき撤去」などをイメージしていたため、些か残念な気がしたが、いまだにおにぎり一個だけの避難所があることを考えると、連合が行っている炊き出しがいかに重要で、必要とされているかがわかり、慣れない作業でも自然と

力が入った。

具体的な作業内容については、前日に確認を行っているが、当日に変更となる場合もあり、現地での受け入れ態勢含めた整備に不十分感があり、また、刻々と変わる被災地ニーズに対応していく必要性を強く感じた。余震についてはさほど大きくはないものの、まだまだ頻発しており、緊張感の有る作業を行った。

派遣中の気候は、日中温かく汗ばむ程だが朝晩はまだ寒く温度差がかなりあり体調管理が難しかった。しかし天候には恵まれ、降雨は夜中だけで作業へは支障なかった。

被災者とは、炊き出しの配膳時に接する機会があり少し会話を交わす事が出来た。ほとんどの方が我々ボランティアに対して感謝をされており、またその気持ちが伝わってきたが、そこで見た笑顔からは、約2ヶ月の避難生活の疲労とストレスも感じられた。

私が今回のボランティアに参加して経験したことは、非常に大きく貴重であり、また、復興にはまだまだ継続的な支援が必要であることが再認識でき、自分出来る何らかの支援を行っていこうと強く思った。

# 梅雨空をコキコキと開けて!

## UIゼンセンシニア友の会グラウンドゴルフ大会盛大に開催



UIゼンセンシニア友の会  
滋賀県支部

支部長 勝田 幸三

恒例になったグラウンドゴルフ大会が梅雨の晴れ間の6月6日、盛大に開催された。この模様をオノマトペ（擬音語、擬態語）で実況してみた。

朝9時ごろ、ワイワイ、ガヤガヤと矢橋帰帆島グラウンドゴルフ場に県下各地から集まり、9時30分開会式、シニア友の会支部長のショウもない挨拶にシラーとしながらも、全員が今日は優勝かもしれないとワクワクしながら、5～6人ずつ、8グループがA～Dコースにパラパラと散って、スタート。

（ここから以降は差し障りもありますのでフィクションとしてお読みください）

Aグループ1番がスタートマットに「久しぶりやで」とかなんとかブツブツぶやきながらボールを置き、不器用にクラ

ブを2,3度フラフラと素振りをして、コキンと打った。まぐれとは恐ろしいものでホールポスト前10センチに付ける。他の5人が「うまい」と、本当はおかしいなと思いつつ掛け声をかける。続いて2番がカチンといい音で打つが3メートルショート。3番がコチンと打つとホールポストをかなりオーバーして茂みに入る。4番がピカピカのマイクラブでテカテカの鮮やかな色のボールを打つと、これもオーバーして茂みの手前でピタリ。5番がこれもツヤツヤのマイクラブでテラテラのボールを手馴れた様子で振りぬくと、なんとゴールポストめがけて真っ直ぐに転がり、フラフラと入ってとまり。ホールインワン。このホール、ホールインワン1、バーディー2、パー3人の上々スタート。

その後、スタートマットをガシャッと飛ばし、ホールポストを3回もスリリとしたり、ゲラゲラ、キャーキャー、クスクス、大賑わいのうちに終わる。ニコニコの優勝者スコア72、ムラムラのブービー115という結果であった。入賞者以外は来年こそはと思いつつトボトボ帰路についた。

